

## 2016 年度春学期授業アンケート総評

教育開発支援センター長 大西秀之

本年度（2016 年度）より授業アンケートの管轄が、教育・研究推進センターから新たに設置された教育開発支援センターに移管されることになりました。これに伴い、授業アンケートの目的や内容を改めて検討し、より一層の充実をはかるべく改定作業を進めております。

ただ本年度は、過去の経緯も踏まえ、基本的にこれまでの方法と形式で実施させていただくこととなりました。このため、昨年度のデータとの比較が可能となることもあり、この総評も昨年までの内容を踏襲させていただきます。

### 1. 実施率・回答率

実施率で+1.8%、回答率で+2.8%、それぞれ前回からポイントがアップしました。さらに、今回の結果は、昨年度よりも延べ回答者数が 4,392 人増加していることを考慮しますと、数値以上の大幅な実態的改善が進んだと評価できるものです。こうした改善は、これまでの教育・研究推進センターの取り組みが実を結んだものであると同時に、教員一人ひとりが授業アンケートの主旨と重要性を認識され、その上で積極的に取り組まれた結果にほかならないと考えております。

### 2. 質問項目ごとの評価平均点

授業の工夫などでポイントの減少が確認されましたが、その他の項目では、ほぼ横ばいか微増・微減の範囲におさまる結果でした。こうした結果は、上述の延べ回答者数の大幅な増加を考慮しますと、むしろ全体として従来の授業の質を維持しつつ、各学部・各学科で多様な学びが推進されていると評価できるものです。この評価は、より直接的に授業内容を反映していると考えられる「内容の理解」、「意欲的な取り組み」、「知的好奇心の刺激」の 3 項目で、前年度のポイントをほぼ維持していることから裏づけられます。このため、今回のポイントを落とした項目は、授業の方法にかかわるものと判断しております。この部分に関しては、アクティブ・ラーニングの実践や授業支援システム「マナビー」の活用などを促して行くことが、今後の改善につながると考えております。

### 3. DWCLA10 選択率

創造力を除く、9項目で微減の範疇とはいえポイントを下げました。DWCLA10は、大学のディプロマポリシーの内容を具体的に表現したものであるため、今後全体として改善して行くことが急務な課題になると認識しています。とりわけ、昨年度の授業評価でも懸案として挙げられていました、リーダーシップの選択率の突出した低さは、社会で活躍する自立した女性の育成を目標に掲げる本学にとっても、また更なる女性の社会進出が求められている現状を鑑みても、早急に改善すべき最優先課題であると認識しています。